

エネルギー資源学会における 日本型標準加速化のためのモデル事業構想

標準化とアカデミアとの連携に関する検討会説明用資料

2024年2月8日

松橋 隆治

エネルギー資源学会の特徴と委託調査、モデル事業受託の可能性

- ① エネルギー・資源学会の特徴は異なる業種の産業界とアカデミアが協調していることにある。また、他の学会がCN（カーボンニュートラル）を掲げることで、本学会への関心が相対的に低下していると考える向きもあるが、他の学会のように、特定の事業を中心に見るのでなく、電気事業、ガス事業、石油事業とあり、更に自動車業界、エンジニアリング、電機メーカー、建築関係などが混在して協調できる体制にあることで、今のCNのセクターカップリングなどの課題にこたえやすいという利点があると考えられる。
- ② 学会の財務データを見ると、個人会員、法人会員からの会費が大きいが、研究プロジェクトなどからの収入も無視できない。さらに、官公庁とのつながりを強化することも重要である。行政は、学会に対する期待があり、例えば、行政、官公庁からの委託調査やモデル事業を学会として受けて、学会事務局に事務経費が支払われるような形も、他の学会ではあるようである。本学会でも検討する価値があると考えている。

エネルギー資源学会の特徴と委託調査、モデル事業推進の可能性

- (1) 経済産業省から、例えばカーボンニュートラル社会の実現などに関し、日本から規格の提案や企画開発などを主導し、そして、日本側のCN関連技術が社会実装されやすいように推進していく「日本型標準加速化モデル」が提唱されている。
- (2) (1)を受けて、本学会でも、上記の「日本型標準加速化モデル」の具現化につながるような検討の場を創成することを考えている。この課題に対し、エネルギー資源学会が最も適していると思ったが、その理由は、前頁の項目①である。
- (3) 本学会会長の下田先生とのご相談の結果、理事会で、エネルギー資源学会において、日本型標準加速化モデルの実現に貢献できる「モデル事業」を推進するための受け皿となる研究会を作つはどうかとの提案を頂き、理事会において承認された。これを基に作成したのが本資料である。
- (4) 本学会では、「CNに関する、電気事業、ガス事業、石油事業その他の事業者の標準化から社会実装に至る先行事例を調査し、幅広い業種で、どうすれば、この戦略がうまく行くかについて、産業界、アカデミア、標準化のエキスパートを含め、検討する研究会
(仮称：エネルギー事業を中心としたCN社会実現のための標準化利用戦略研究会)の立ち上げを、学会の理事会において、承認されている。
- (5) エネルギー資源学会の上述した機能、意義や、メリットを認めて頂き、モデル事業推進の可能性があると考えている。
- (6) 今後も、様々な形で、学会が社会に貢献する機会を検討していきたい。

1. エネルギー資源学会におけるモデル事業推進の構想

- エネルギー資源学会内に「**エネルギー事業を中心としたCN社会実現のための標準化利用戦略研究会（仮称）**」を設立し（学会理事会にて承認済み）、標準化専門機関と連携（当該機関の関連部門のリーダーの承認済み）して、**モデル事業**を推進し、若手の育成をおこなう。事業の内容は下記の通り。

